



農業支援サービスの 普及に向けた 分析レポート（耕種）

令和6年11月

農林水産省大臣官房統計部統計データ分析支援チーム
（農業支援サービスKPIチーム）

農業支援サービスについて

- 農林水産省は、生産現場における人手不足や生産性向上等の課題に対応し、農業者が営農活動の外部委託など様々なサービスを活用することで経営の継続や効率化を図ることができるよう、「農業支援サービス」の定着を促進している。
- 農業支援サービスとは、不特定の農業者等に対して対価を得てサービスを提供することをいい、ドローン散布等の作業受託やデータ分析、農業機械のシェアリング、農業現場への人材供給等がある。
- これまで農林水産省では、農業者等が各種農業支援サービスを比較・選択できる環境の整備に向け、農業支援サービスの概要や対象地域・品目、サービスを利用する際にかかる料金等サービス提供事業者が表示すべき情報等の指針として「農業支援サービス提供者が提供する情報の表示の共通化に関するガイドライン」を策定するなど、普及対策に取り組んできた。

目次

1. 分析の概要

分析の目的や方針、使用したデータ等

2. サービスの特徴

I～IVのグループ別にみたサービス利用状況の特徴

3. 分析結果

II～IVのグループ別にみた分析結果の特徴

4. 対前年比較

I～IVのグループ別にみた対前年の特徴



The slide features several large, overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and a yellow diamond. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green parallelogram, and a yellow parallelogram. The text is centered on the left side of the slide.

1. 分析の概要

(1) 分析の目的

分析の目的

- 耕種(*)の6部門について、農業支援サービスの現在の利用状況や、将来の利用意向を明らかにする。
- 耕種の6部門について、農業支援サービスの普及を進める対策検討のための示唆を得るとともに、農業支援サービスの提供事業者にとっても役に立つ知見を示す。

*耕種とは、令和5年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の問1（過去1年間の販売金額が1位の部門）における水田作・畑作・露地野菜・施設野菜・果樹・その他作物（花きなど）の6部門を指す。

使用したデータ

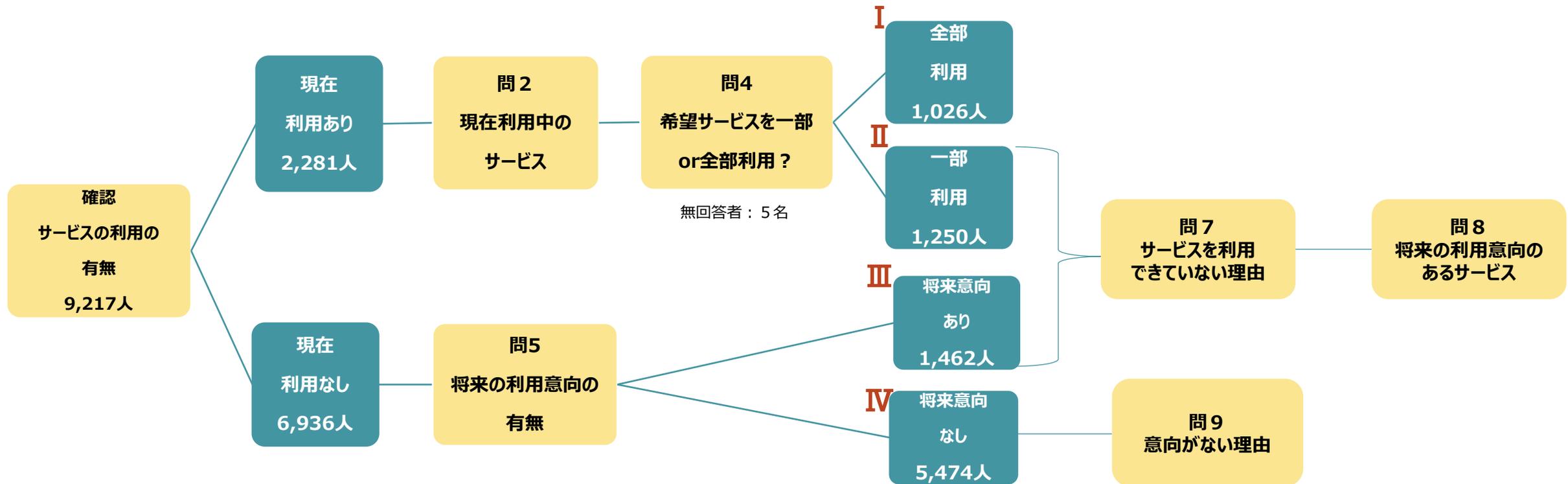
- [令和5年度農業支援サービスに関する意識・意向調査](#)

令和5年8月下旬～9月下旬に実施されたアンケート調査。
2020年農林業センサス結果を基に選ばれた、認定農業者等
がいる個人経営体の世帯主及び団体経営体の代表者である農
業者 10,351 人から回答を得た。

- 2020年農林業センサス農林業経営体調査

(2) グループの区分

- 令和5年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の質問項目の概観は以下のとおり。
- 回答状況により回答者を I ~ IV の4グループに区分
(本レポートは耕種又は畜種の部門未回答者78名は除外)



(3) グループⅠ～Ⅳの説明

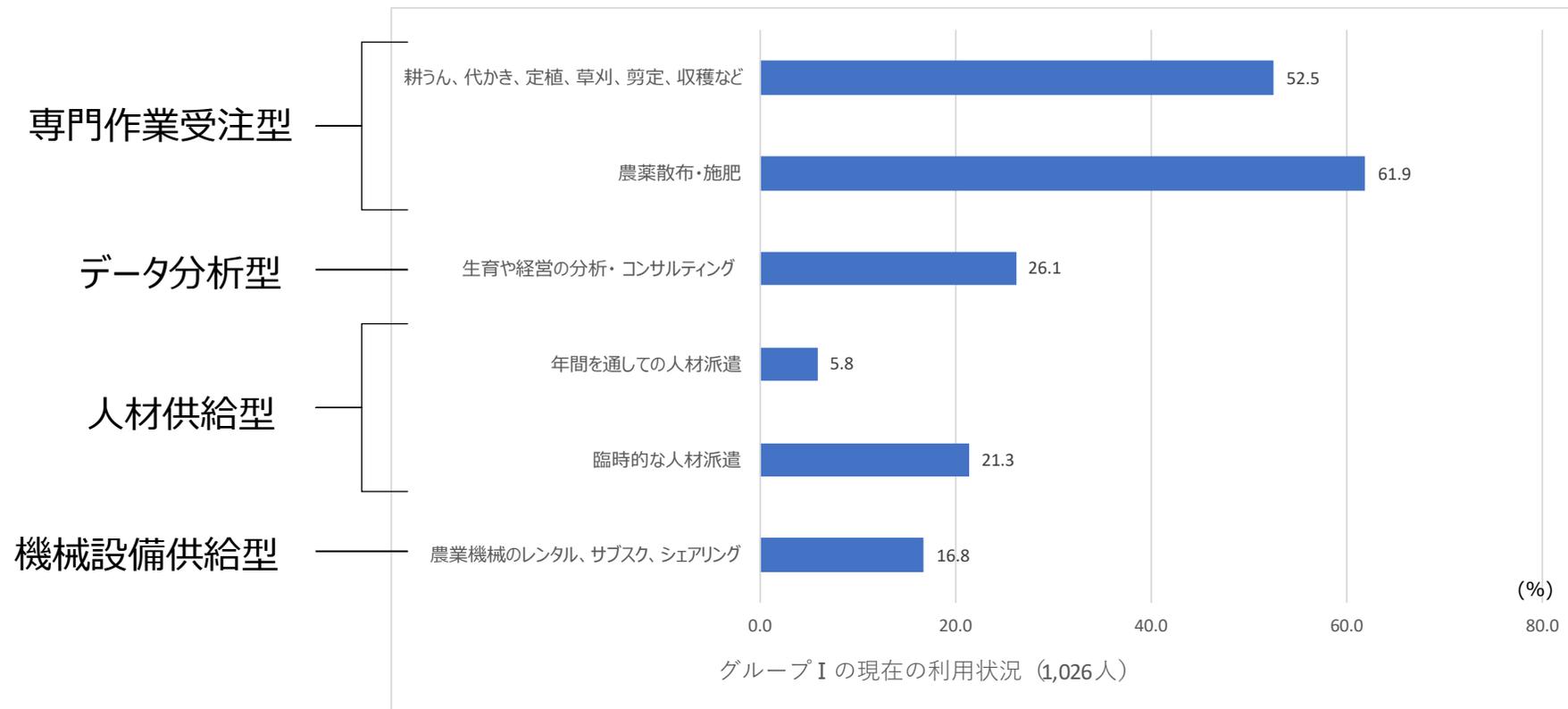
	現在の 利用状況	将来の 利用意向	グループの説明
Ⅰ	○ (全部利用)	— ※回答非対象	現在希望する全ての農業支援サービスを利用していると回答したグループ。
Ⅱ	△ (一部利用)	○	現在希望する一部の農業支援サービスは既に利用しており、かつ、利用中の農業支援サービス以外の利用を希望していると回答したグループ。
Ⅲ	×	○	現在農業支援サービスは利用していないが、今後の農業支援サービスの利用を希望していると回答したグループ。
Ⅳ	×	×	現在農業支援サービスは利用しておらず、今後の農業支援サービスの利用も希望していないと回答したグループ。

The background features several overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a large teal shape, a green shape, and a yellow diamond. In the bottom left, there is a teal triangle, a green triangle, and a yellow triangle.

2. サービスの特徴

(1) グループ I の現在の利用状況

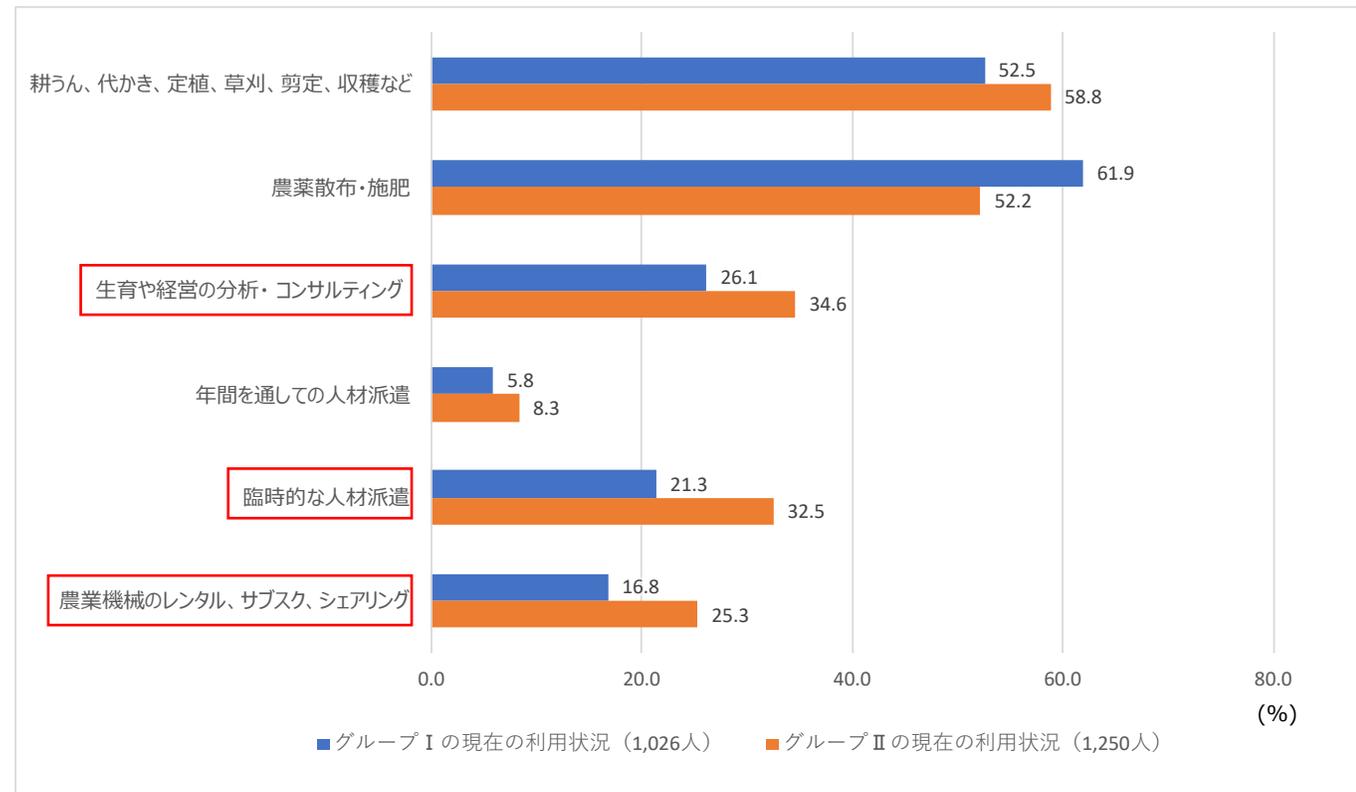
- グループ I における個別のサービスの利用状況（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）
- 「耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など」、「農薬散布・施肥」を利用している割合が高くなっている。
- 一方、「生育や経営の分析・コンサルティング」、「臨時的な人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」では利用している割合が低く、「年間を通しての人材派遣」を利用している割合はさらに低くなっている。



(2) グループⅡの現在の利用状況

■グループⅡにおける個別のサービスの利用状況（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）（ はⅡの回答率がⅠよりも8ポイント以上高いサービス）。

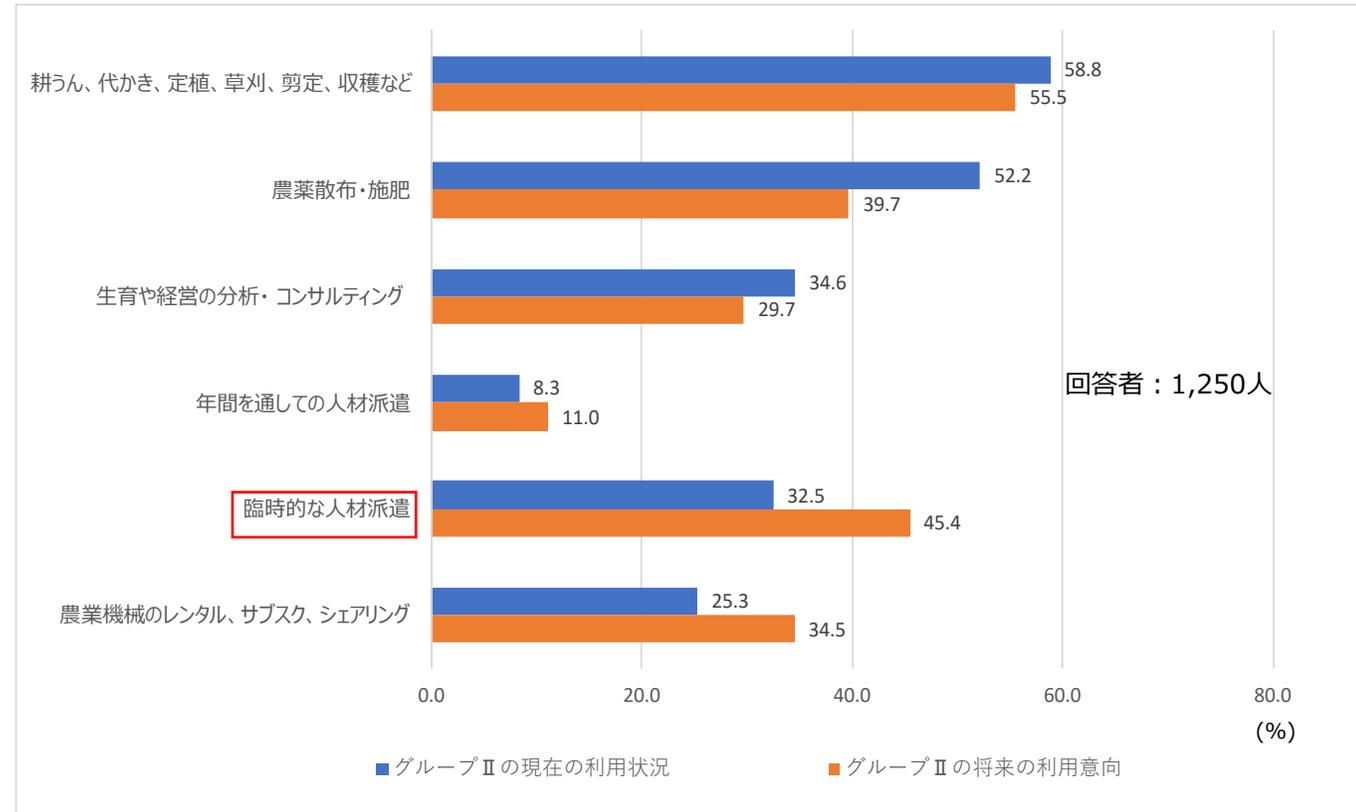
■グループⅡとグループⅠの現在の利用状況を比較すると、特に「生育や経営の分析・コンサルティング」、「臨時的人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」において、グループⅡの方が利用している割合が高くなっている。



(3) グループⅡの将来の利用意向（現在、利用しているサービス以外）

■グループⅡにおける個別のサービスの将来の利用意向（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）
（臨時的人材派遣は利用意向の回答率が現在の利用状況よりも8ポイント以上高いサービス）。

■グループⅡの現在の利用状況と将来の利用意向を比較すると、特に「臨時的人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」において、現在の利用状況よりも将来の利用意向の割合が高くなっている。



注：図のグループⅡ 将来の利用意向がある者の内訳は下記のとおり

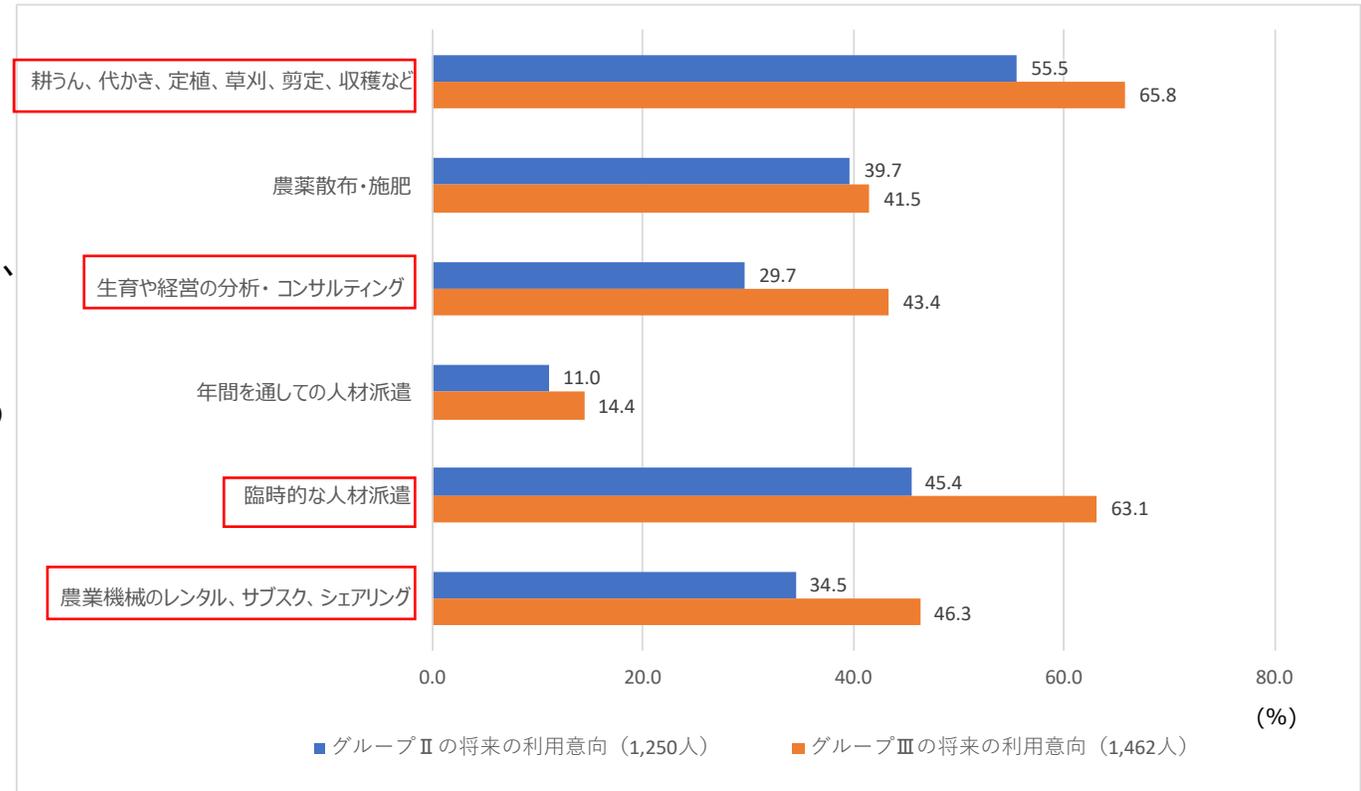
① 当該サービスの未利用者のうちサービスの利用を希望する者。

② ①加えて、当該サービスを利用している者のうち当該サービスの中で利用できていないサービス内容の利用を希望する者。

(4) グループⅢの将来の利用意向

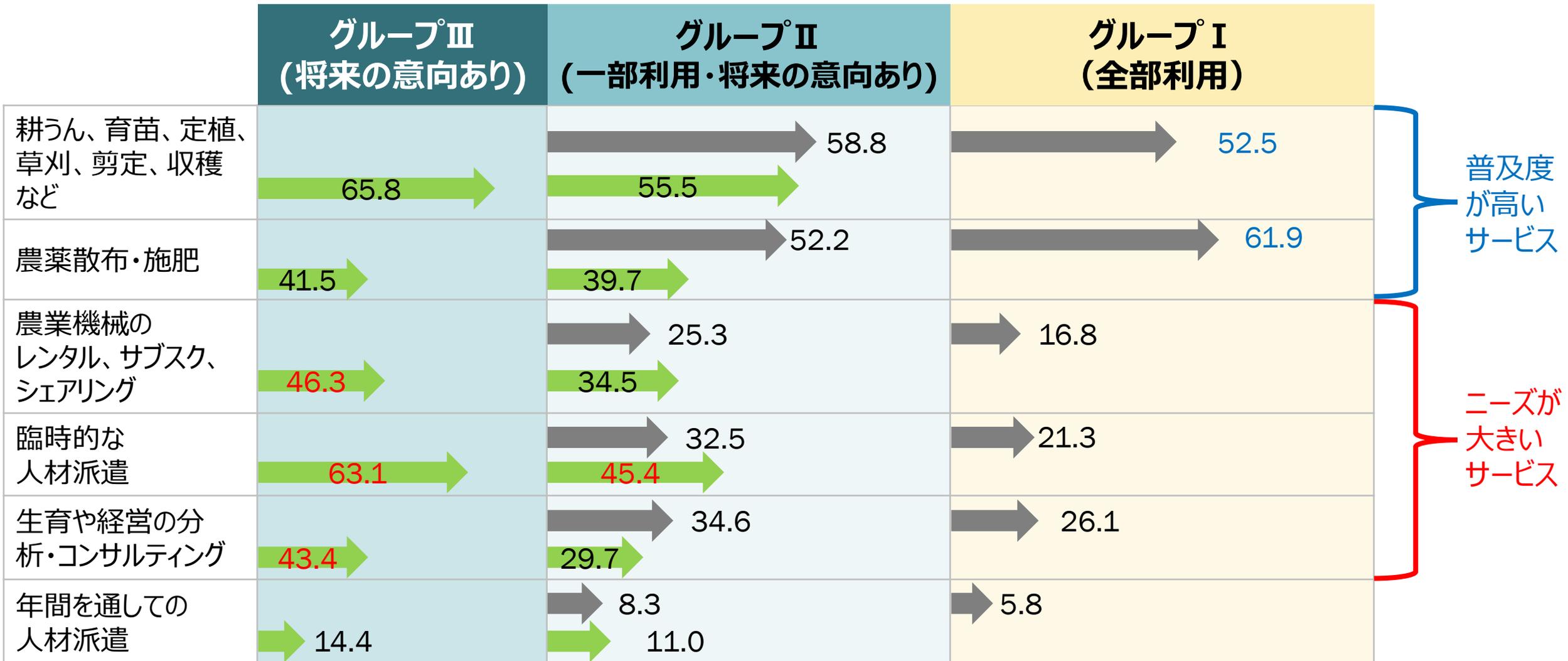
■グループⅢにおける個別のサービスの将来の利用意向（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）
（ はⅢの回答率がⅡの回答率よりも8ポイント以上高いサービス）。

■グループⅢとグループⅡの将来の利用意向を比較すると、特に「生育や経営の分析・コンサルティング」、「臨時的人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」において、Ⅲの方が将来の利用意向の割合が高くなっている。



(5) サービスの特徴 (耕種全体)

 現在の利用状況 (%)
 将来の利用意向 (%)



↑数字 (%) はⅢの利
用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅡの利用状況及
び利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅠの利用状況より抜粋

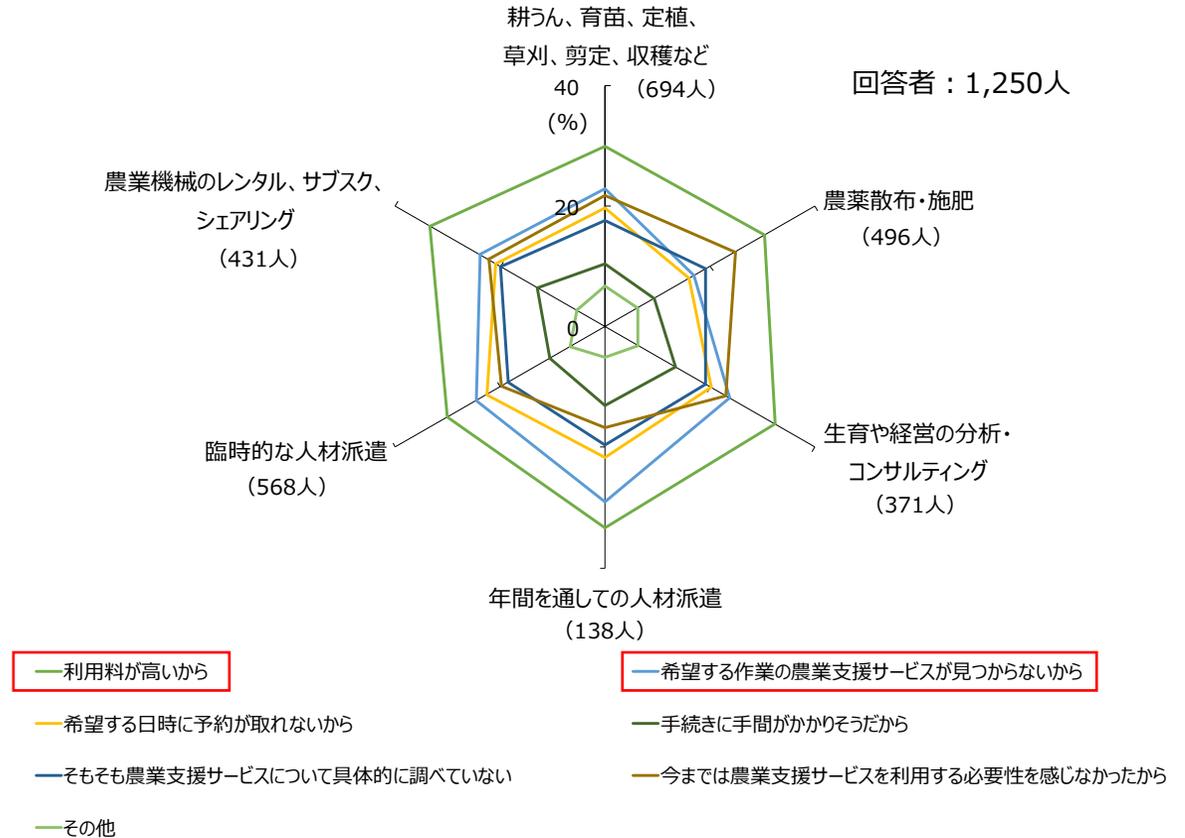
※①普及度が高いサービス = グループⅠで利用している割合が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。

3. 分析結果



(1) グループⅡの利用課題の分析結果

- グループⅡにおける、将来の利用意向のあるサービスと、調査時点で当該サービスを利用できていない主な理由（耕種全体）の関係性は右図のとおり。（複数回答）
- 全てのサービスにおいて、「利用料金が高いから」と回答した割合が最も高くなっている。
- 次いで農薬散布・施肥以外のサービスにおいて、「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」と回答した割合が高くなっている。



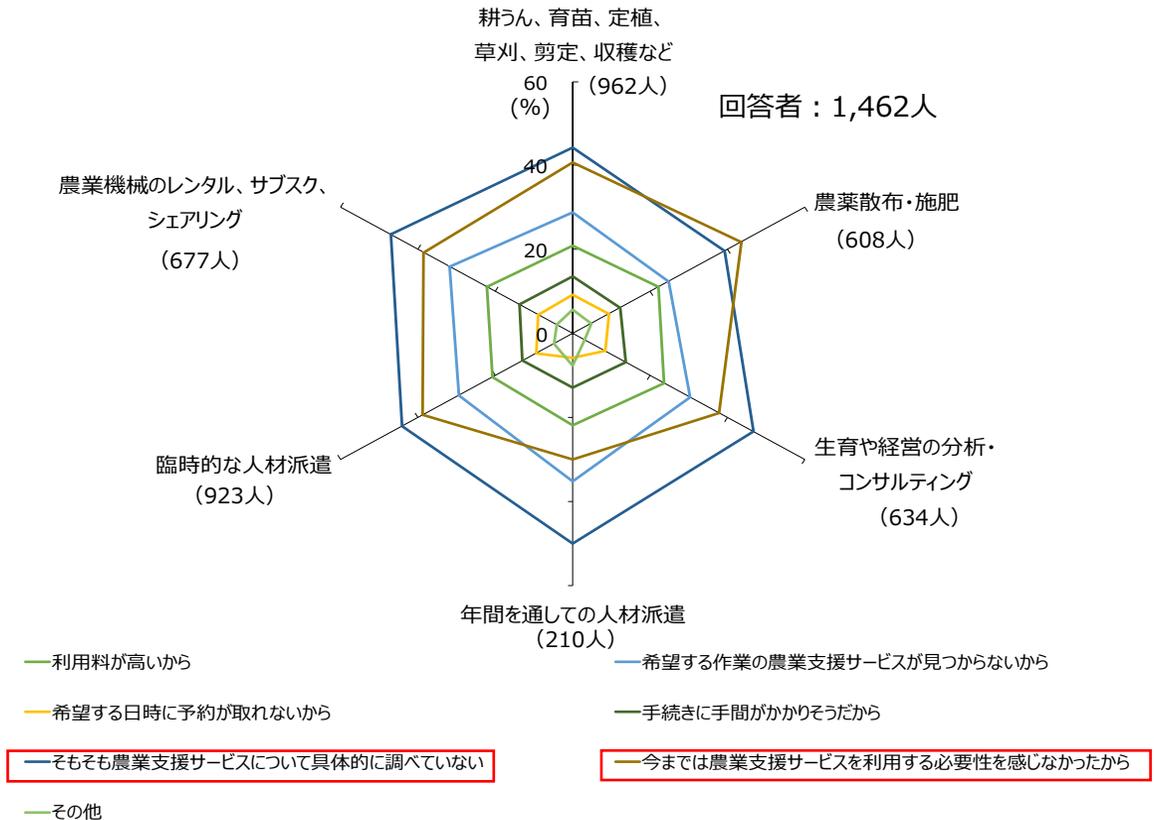
※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。

(2) グループⅢの利用課題の分析結果

■グループⅢにおける、将来の利用意向のあるサービスと、調査時点で当該サービスを利用できていない主な理由（耕種全体）の関係性は右図のとおり。（複数回答）

■全てのサービスにおいて、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」又は「今までは農業支援サービスを利用する必要性を感じなかったから」と回答した割合が最も高くなっている。

■「年間を通しての人材派遣」において、「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」と回答した割合が、他のサービスに比べて割合が高くなっている。

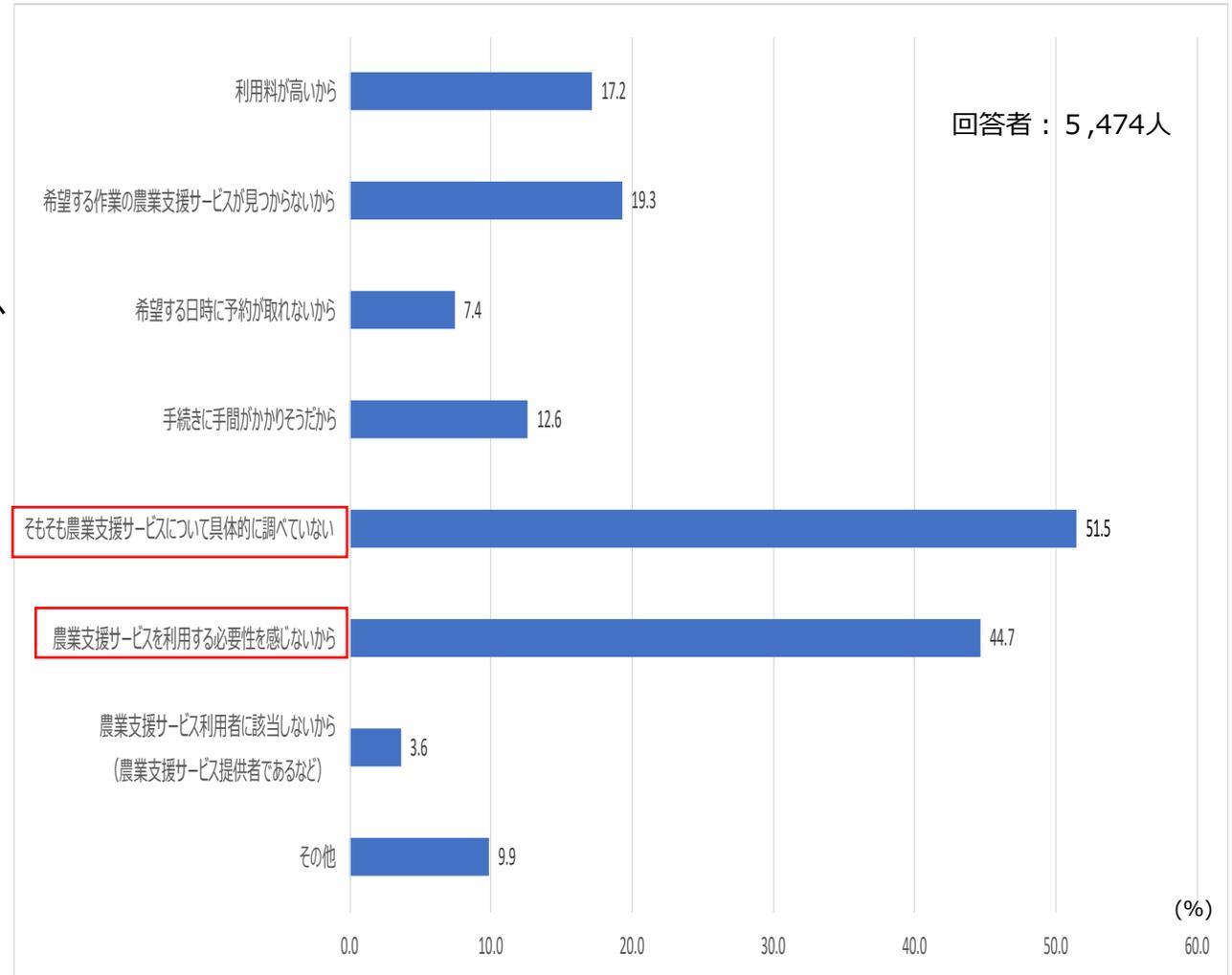


※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。

(3) グループⅣの利用課題の分析結果

■グループⅣにおける、将来の利用意向がない主な理由（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）

■「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」、「農業支援サービスを利用する必要性を感じないから」と回答した割合が高くなっている。

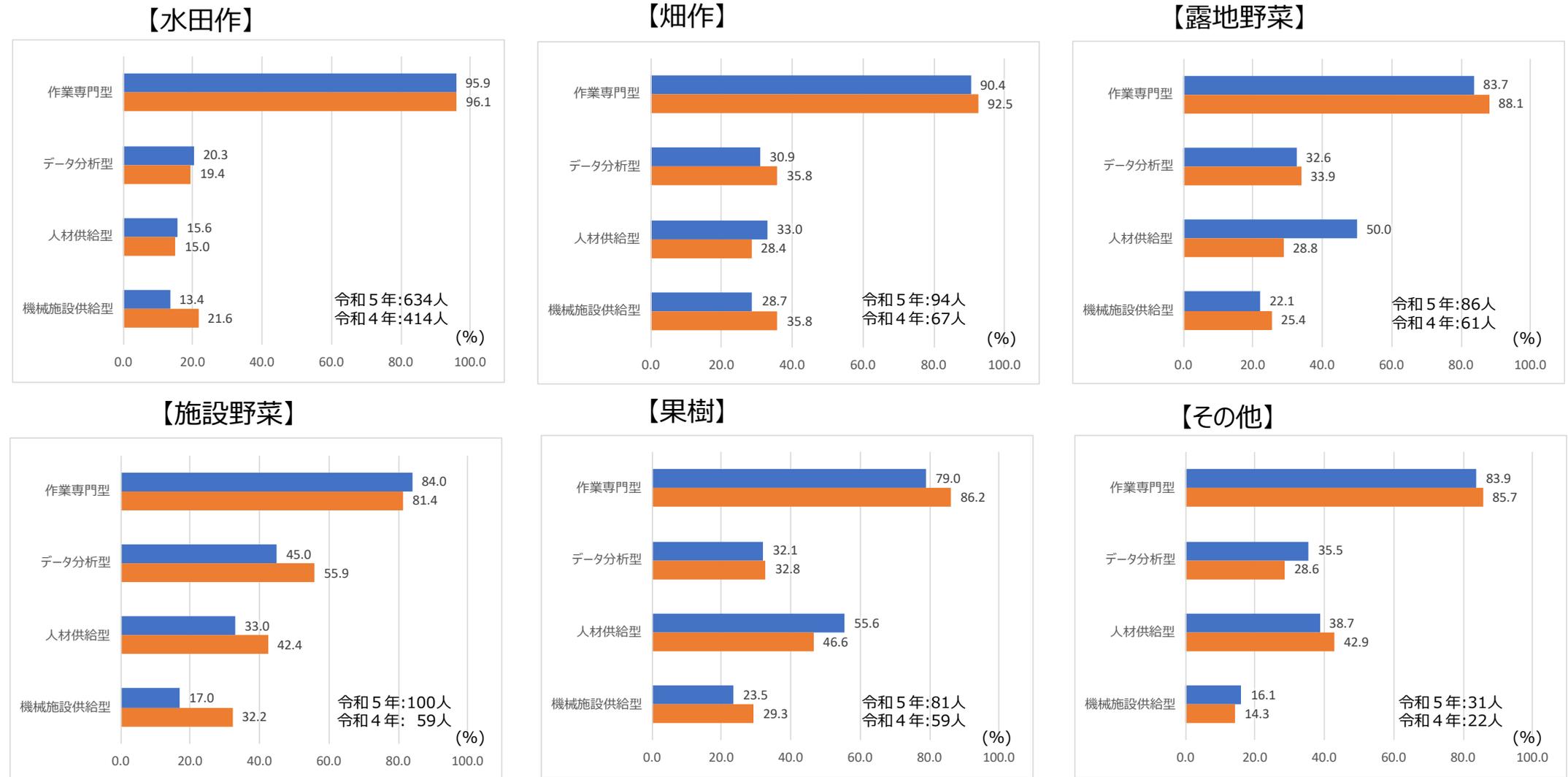


The slide features several large, overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and a yellow diamond. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green parallelogram, and a yellow parallelogram. The text '4. 对前年比較' is centered on the page.

4. 对前年比較

(1) グループ I の現在の利用状況の比較 (R5,R4)

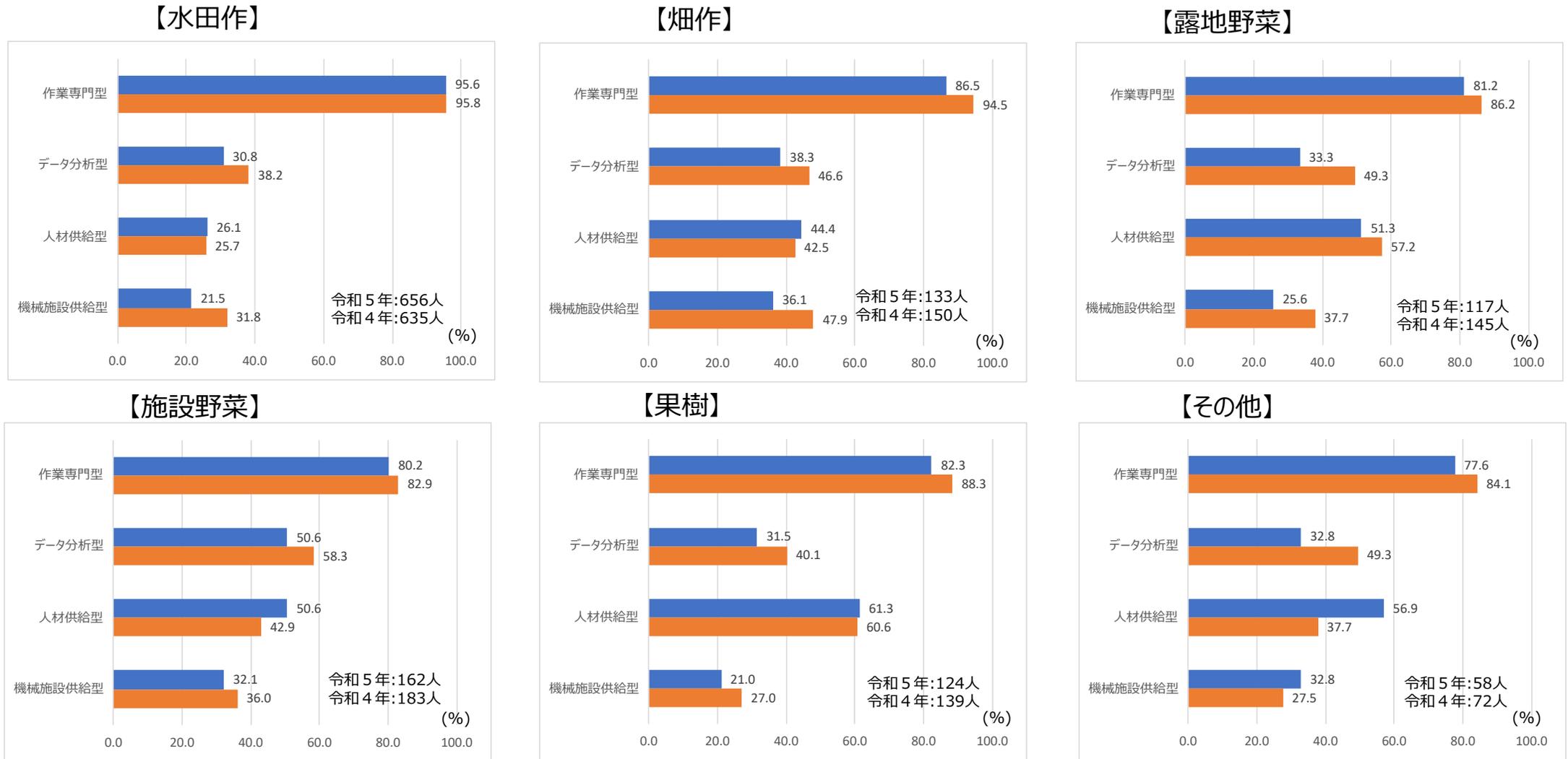
■グループ I における令和 5 年調査と令和 4 年調査の利用状況比較は下図のとおり。(複数回答)



■ 令和 5 年 (1,026人) ■ 令和 4 年 (682人)

(2) グループⅡの現在の利用状況の比較 (R5,R4)

■グループⅡにおける令和5年調査と令和4年調査の利用意向比較は下図のとおり。(複数回答)

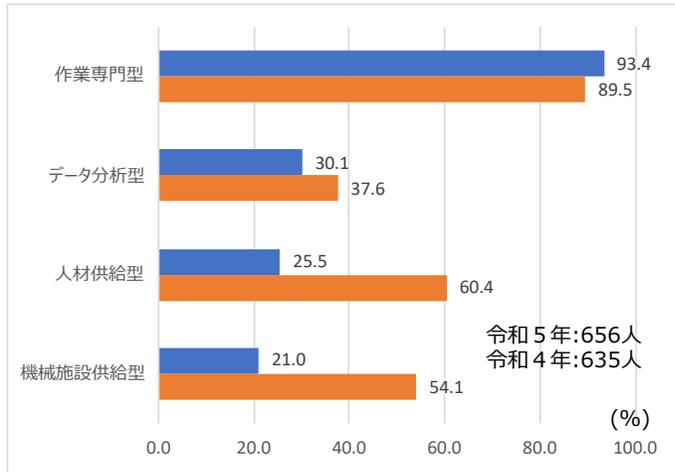


■ 令和5年 (1,250人) ■ 令和4年 (1,324人)

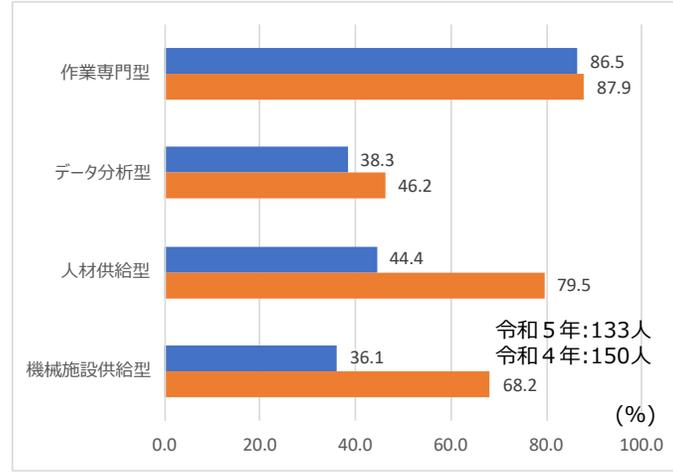
(3) グループⅡの将来の利用意向の比較 (R5,R4)

■グループⅡにおける令和5年調査と令和4年調査の利用意向比較は下図のとおり。(複数回答)

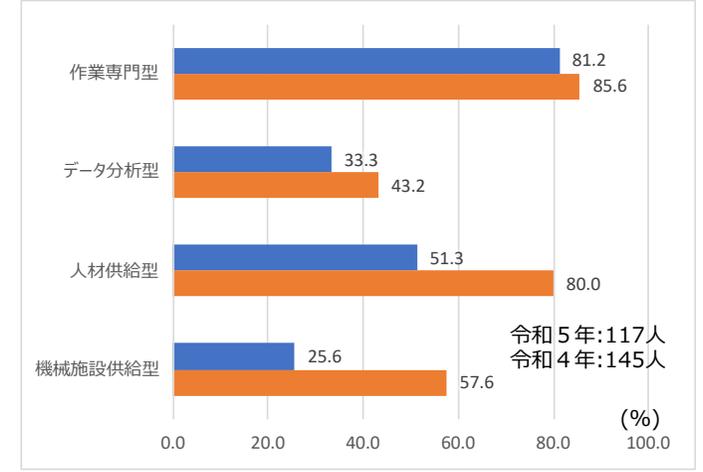
【水田作】



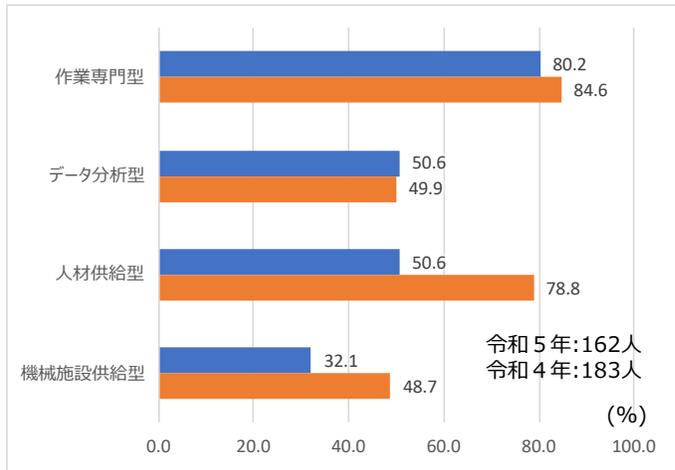
【畑作】



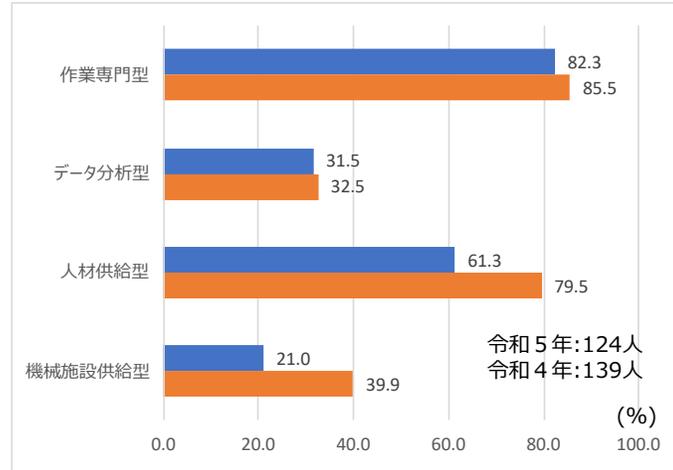
【露地野菜】



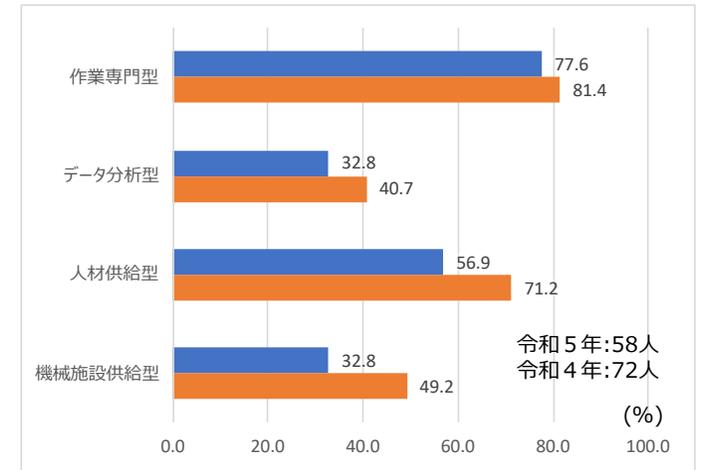
【施設野菜】



【果樹】



【その他】

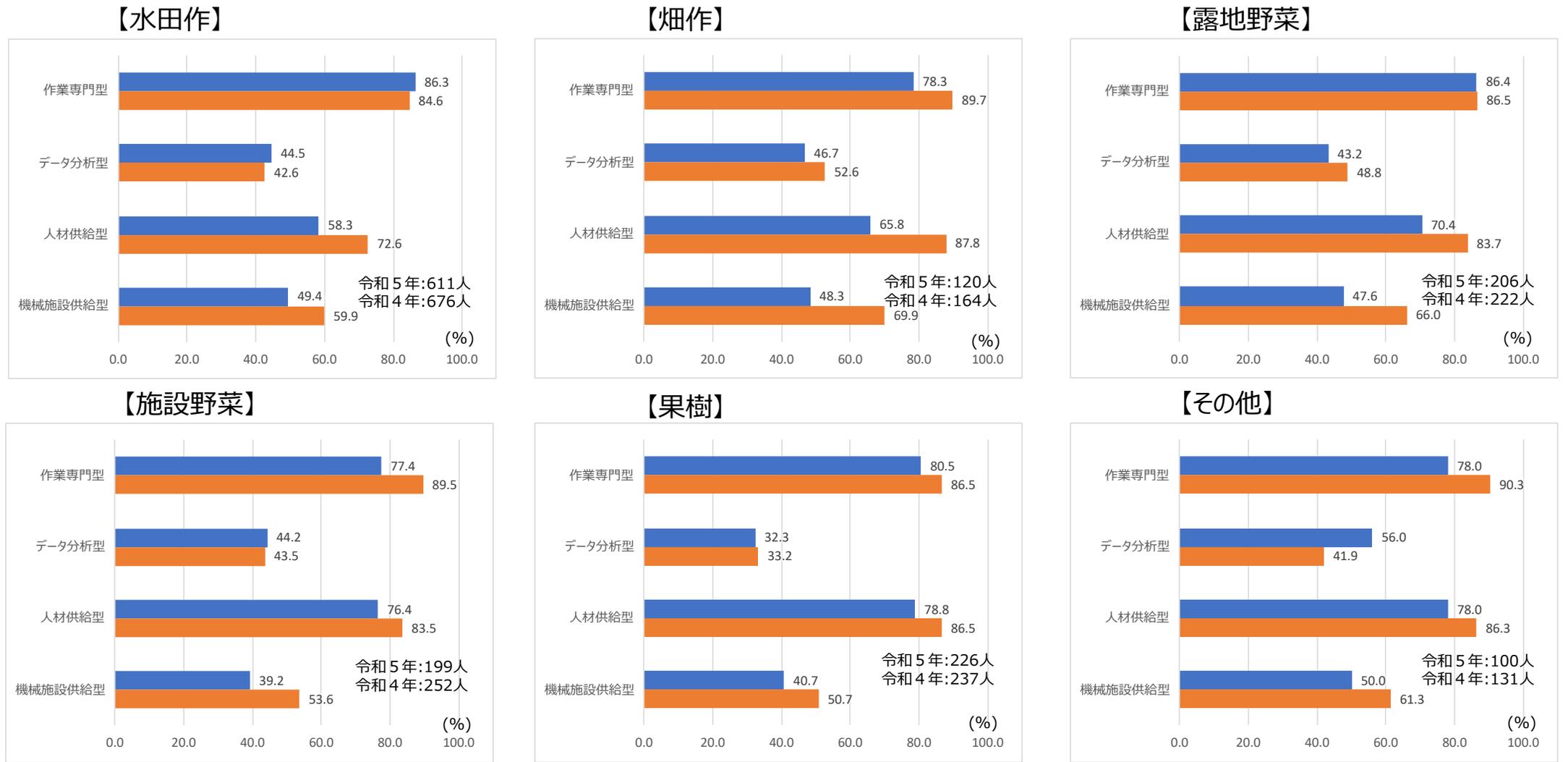


■ 令和5年 (1,250人)

■ 令和4年 (1,324人)

(4) グループⅢの将来の利用意向の比較 (R5,R4)

■グループⅢにおける令和5年調査と令和4年調査の利用意向比較は下図のとおり。(複数回答)



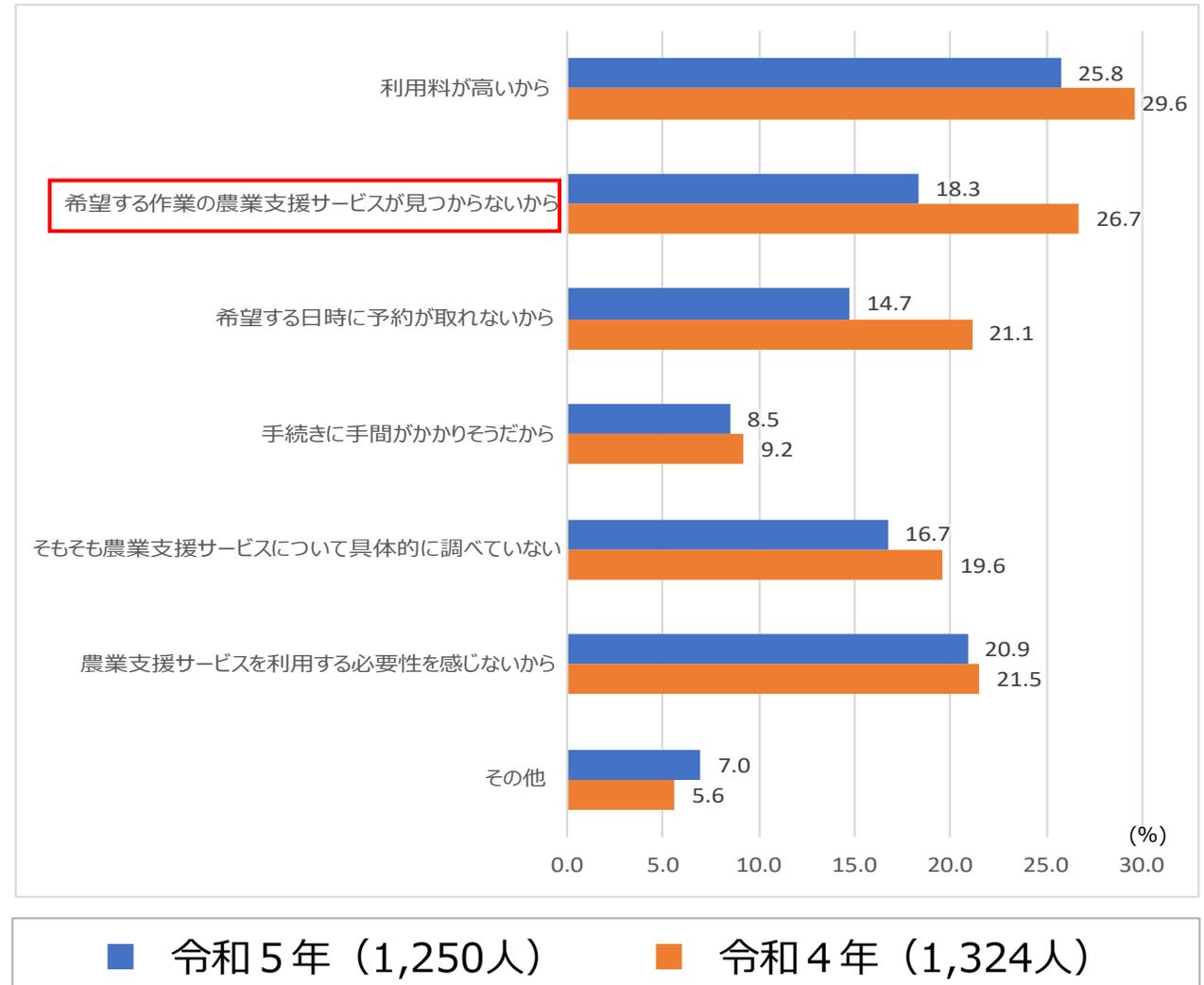
■ 令和5年 (1,462人) ■ 令和4年 (1,682人)

(5) グループⅡの利用課題の比較 (R5,R4)

■グループⅡにおける利用課題（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）（希望する作業の農業支援サービスが見つからないからは令和5年の回答率が令和4年の回答率よりも8ポイント以上低い理由）。

■昨年と同様に有償の農業支援サービスを利用出来ていない理由として、「利用料が高い」と回答した割合が最も高くなっている。

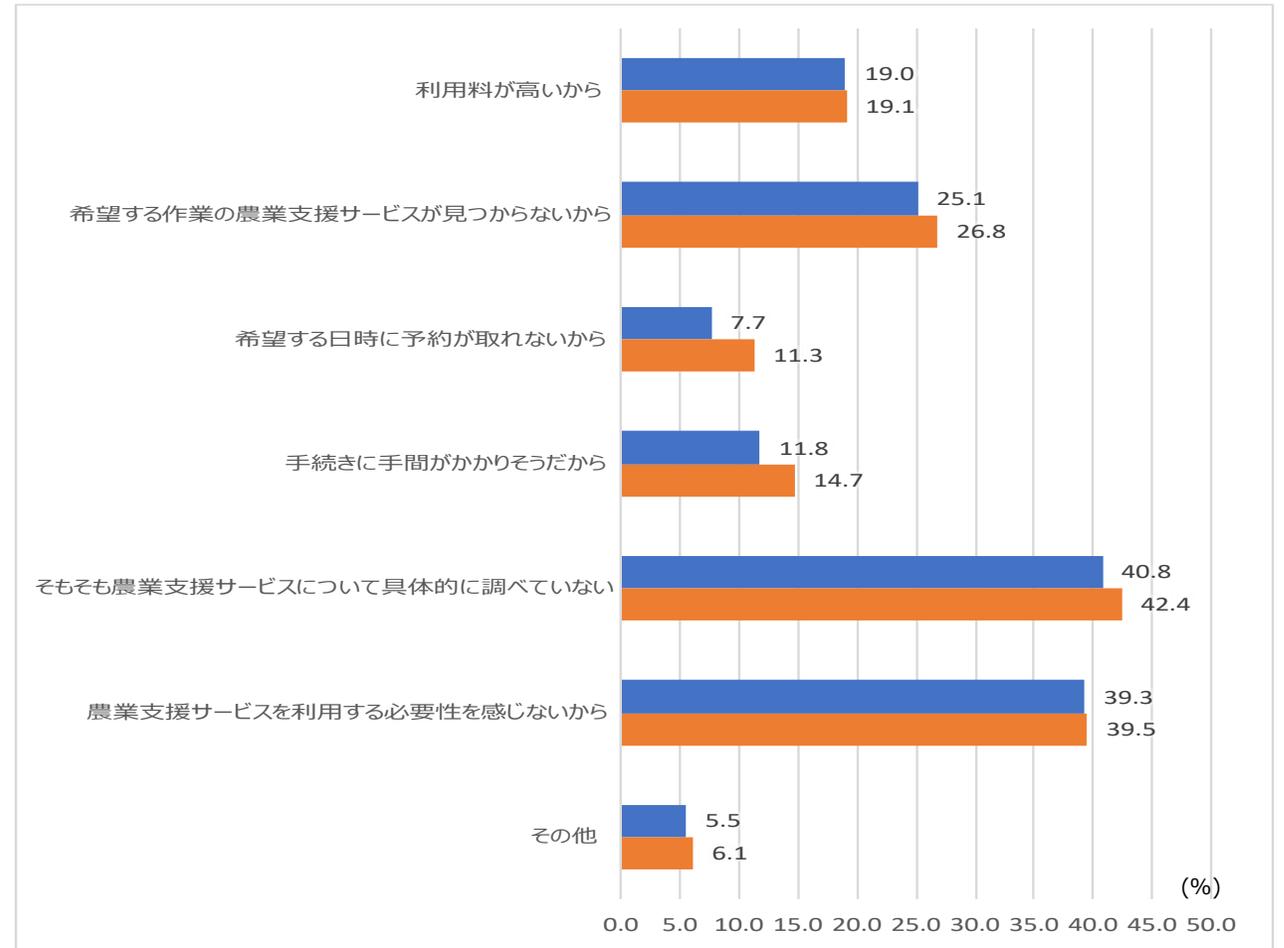
■昨年と比較すると、特に「希望する作業の農業支援サービスが見つからない」と回答した割合が低くなっている。



(6) グループⅢの利用課題の比較 (R5,R4)

■グループⅢにおける利用課題（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）

■昨年と同様に有償の農業支援サービスを利用出来ない理由として、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」、「農業支援サービスを利用する必要性を感じないから」と回答した割合が高くなっている。



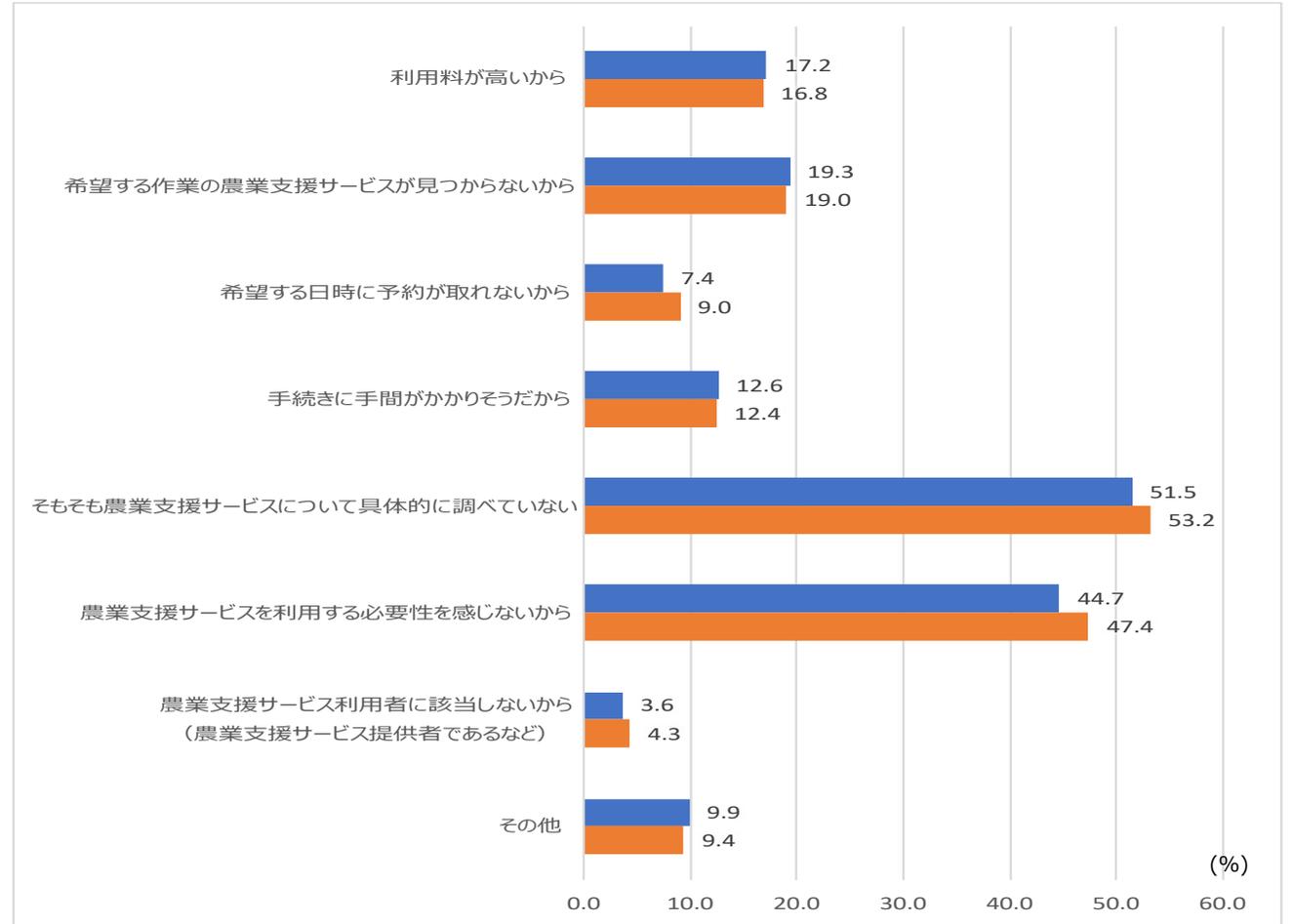
■ 令和5年 (1,462人)

■ 令和4年 (1,682人)

(7) グループⅣの利用課題の比較 (R5,R4)

■グループⅣにおける利用課題（耕種全体）は右図のとおり。（複数回答）

■昨年と同様に有償の農業支援サービスを利用する意向がない理由として、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」、「農業支援サービスを利用する必要性を感じないから」と回答した割合が高い。



■ 令和5年 (5,474人)

■ 令和4年 (5,792人)

(8) 対前年比較のまとめ

- 令和5年度の耕種における、各グループにおける農業支援サービスの利用状況、利用意向、利用課題を令和4年度と比較分析した結果、各グループともに回答項目1位に変化は見られないことが分かった。
- その上で、グループⅡの「利用料金が高いから」やグループⅢ及びグループⅣの「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と回答した農業者などに対して、今後農業支援サービスを普及させていくためには、引き続き利用者のニーズをきめ細やかに捉え、利用者のサービス受容段階に応じた適切なアプローチを行っていくことが重要であると考えます。